

地区住民及び保護者等に対する合同説明会開催概要

- 1 目 的** 角田市教育委員会（以下「市教育委員会」という。）では、『角田市学校の適正規模等に関する基本構想「第3次行動計画構想」』が示す学校の再編・統合案のうち、角田中学校と北角田中学校の再編・統合後の新中学校の適地選定について、令和7年7月に再設置した角田市学校適正規模検討委員会（以下「検討委員会」という。）における検討を踏まえ、中間案を取りまとめました。

今後、市教育委員会が新中学校建設用地の適地を選定するにあたり、中間案の説明を行い、意見交換等を実施したものです。

- 2 参集範囲** 全市民

- 3 説明者** 教育長、教育次長等

4 実施状況

月日	11/20	11/25	11/26	11/27	12/1	12/2	12/3	12/4	12/5
時 間	18:30～	18:30～	19:00～	19:00～	19:00～	18:30～	18:30～	19:00～	19:00～
場 所	小田	東根	藤尾	枝野	横倉	西根	角田	桜	北郷
参加人数	3人	1人	8人	12人	0人	6人	8人	6人	2人

参加人数合計 46人

- ・実施場所について、角田地区においては角田市市民センター、その他の地区は自治センターで開催した。どの場所の開催においても地域を問わず参加可能とした。

- 5 説明項目** 新中学校建設用地の適地選定について（中間案）

6 主な質疑・意見**○旧角女高の跡地に新中学校を建設することに賛成の意見**

- ・旧角女高について、面積は十分であり、場所も街中であることから良い。
→ ご意見として承る。
- ・ご説明いただいた内容には異論はない。
→ ご意見として承る。

○旧角女高の跡地に新中学校を建設することに反対の意見

- ・学校は安全性が一番大事である。単純に○や◎の数でコンサルタントが適地と判断したのかもしれないが、防災面・安全面の重要度を他の項目の3倍・4倍で考えていただきたい。
しかしながら、角田中学校敷地に新しい校舎の建て替えをしたら、工事の騒音、校庭使用不可等、その時の生徒達に迷惑がかかる。これは地元住民としても可愛そうだ。
個人的な意見としては、隣の角田高校の校庭を中学校の用地の一部に使わせてもらえないだろう

か。検討委員会で検討していただきたい。角田高校生徒には旧角女高の校庭を使ってもらえば良い。

角田高校は、唯一の防災拠点となる。地元行政区が防災訓練をしているが、角田高校をもっと市民が利用しやすい場所にするよう県に強く要望してほしい。防災拠点として柔軟に使えるように県へ提案するよう検討いただきたい。

また、角田高校は角田城跡地で角田の遺産である。市民が自由に使えるような場所になれば、もう一つの名所にもなる。話が飛躍しているが、この機会を捉えて、県と柔軟に話をしていただくようご検討いただきたい。

→ 角田中学校の校庭は狭く、部活動が野球場の外野でサッカーと陸上の練習をしている。角田高校も同じような状況で、野球が校庭を使用するとサッカーができない。角田高校の敷地も狭い状況なので、角田高校の敷地を角田中学校で使用するの難しい。

- ・ 角田高校の体育館を建築するときも騒音が酷かった。旧角女高周辺は住宅地であるため、新中学校を建設するには周辺に迷惑かけることになる。それを必要最低限にするため、角田高校の校庭を譲ってもらうのが一番である。角田中学校には広い校庭ができ、移動も楽である。

→ ご意見として承る。

- ・ 液状化の部分は、素人なので、説明を受けても納得いかない。旧角女高に新中学校を建設するとコストがかからないことは分かるが、経費が浮いた分、浸水対策を充実させれば、保護者も前向きになれると思う。しかしながら、現時点では、阿武隈川に近いことから、川が氾濫し、学校が浸水することがとても心配である。子ども達がそのような状況にならないように、川に近い場所に建設しないでほしい。

→ 検討委員会等で防災対策を検討していく。

○パブリックコメント・説明会について

- ・ 説明会での意見やパブリックコメントの意見は公表されるのか。

→ 説明会の意見は検討委員会で報告する。検討委員会が出された資料は、市のホームページに掲載するので、市民の皆様も見ることができる。パブリックコメントについても、市のホームページに掲載する。

- ・ 説明会の資料を、各小中学校の保護者にデータで構わないので送付いただきたい。

→ 送付する。

- ・ 私は学校適正規模検討委員会の委員であるが、3ページの面積と通学距離に対して、委員会の中で評価をしたほうが良いとの意見があったのではないかと。

→ 面積は「敷地の現況」に、通学距離は「アクセス性」のところに説明を追記した。

○用地について

- ・ 場所は旧角女高であるが、県との調整は進んでいるのか。

→ 本日も宮城県へ出向き、協議してきた。新中学校の適地が旧角女高の跡地に確定した場合、県は

協力するとの話であった。

- ・ 県が了承しているならば、学校建設を早く進めたほうが良いと思う。

→ 整備基本計画策定後、本来、基本設計1年、実施設計1年かかるところを1年半で行う。その後、建設に3年間かかる。PFIという手法を使うとさらに期間を要する可能性がある。供用開始は第3次行動計画構想期間の令和15年度までを想定している。

- ・ 旧角女高の跡地にある建物は解体するのか。

→ 解体する予定である。

- ・ 旧角女高の跡地に新中学校を建設した場合、農協スタンド近くの出入口をスクールバスが通行するのは難しいのではないかと。それとも北側か東側から出入りさせるのか。

→ 現在、検討しているところである。また、近隣の土地の利用状況（居住しているか否か）を確認すれば、出入口として活用できる土地が他にもあるかもしれない。

- ・ 旧角女高が一番広いが、学校に必要な面積はどれくらいか。

→ いろんな捉え方がある。国の中学校の設置基準では、だいぶ少ない面積でクリアする状況にある。仮に新中学校の生徒数を450人とすれば校舎面積は3,060㎡、運動場は5,700㎡で、合わせて1万㎡に満たない。それは最低限の面積である。

実際、角田中学校は約28,000㎡あるが、屋外の部活動は、野球、サッカー、陸上、ソフトテニスを行っている。ソフトテニスの敷地は確保されているが、それぞれの部活動を制限しながら行っている。対外的な練習試合もなかなかできない状況である。

一方、仙北の美里町の中学校では、だいたい旧角女高の面積と同じくらいで、過不足無くレイアウトできる理想的な広さである。

- ・ 旧角女高が適地案との説明であったが、旧角女高は県の所有地である。県との協議は進んでいるのか。

→ 旧角女高の用地に新中学校を建設する可能性があることについて、市長・教育長が県知事や県の教育長に説明し、理解を得ている。現在、県と用地取得までのスケジュールについて協議している。旧角女高が適地と決定すれば、早い時期に用地を購入できるよう進めていく。

- ・ 議会で、旧角女高が過去に遺体安置所だったことを気にする議員の発言があったが、そのことについて説明してほしい。

→ お化けが出るなどの話を払拭するくらいの素晴らしい学校を造っていきたい。

- ・ 旧角女高は県有地であるが、県と接触しているのか。また、用地取得と言っているが、借地や等価交換はできないのか。なるべく市の負担を軽減するためにも等価交換をし、差額だけを支払う方法もある。角田市内に県有地は要らないと言われれば仕方がないが。

→ 議会の全員協議会でも、同様の質疑があった。中間案がまとまった段階で、市教育長と一緒に県に訪問させていただき、県教育長や施設整備課と調整している。角田中学校敷地との交換を視野に

入れて土地を購入できないか確認したが、角田高校を管理している県の高校教育課より、生徒数が減少している状況において、土地を求める理由がないため交換はできないとの回答を得ている。

また、角田市が旧角女高の土地を購入する可能性があることについては理解を得ている。

さらに、11月5日に市長が県知事に申し入れをし、理解を得ている。

○通学について

- ・ 町中の生徒もスクールバスを使用することになるのか。

→ スクールバスを利用するか否かは、通学距離で決まる。

中学生がスクールバスを利用する際の補助の対象は6キロが基準であるが、実際にスクールバスを利用するかどうかは、今後協議して決めていく。

- ・ 枝野、藤尾は近くなる。橋に歩道はあるから、自転車等で通学できる。

→ ご意見として承る。

○学校周辺の道路状況について

- ・ 雨の日等の送迎は、角田中学校周辺の道路が大変混みあう。新中学校が旧角女高の跡地となった場合、西側が車の通りが多い国道であることから、渋滞が心配される。入口は2か所だと思うが、バス、自転車、徒歩、自家用車の送迎など、いずれにしても、渋滞や安全面を考えた方がよい。以前、旧角女高として学校を運営していたことから大丈夫だとは思いますが、横断歩道が一箇所ですでに少なく危ないと感じている。

→ 旧角女高の入口は、北側の正門、東側と西側（JAスタンドの隣）の通用門の3か所になっている。利用しやすいように周辺整備を進めてほしいと教育委員会から市側に要請したい。

横断歩道についても、警察との協議が必要となるが、生徒が安全に通学できるよう要望していく。

- ・ 3ページの取付道路の整備について、旧角女高北側の中島下6号線の道路拡幅工事が必要とあるが、6mの幅員があれば拡幅工事は必要ないのではないか。

→ 最近増加している保護者の車による送迎やスクールバスの学校敷地内の乗り入れ等があり、生徒が安全に登下校するためには、車の対面通行、歩道の整備等が不可欠である。道路の拡幅は教育委員会では行えないことから、市長部局に道路の整備を求めていく。

○跡地利用について

- ・ 学校はコミュニティの拠点とか防災拠点とか、そのような位置づけがある。角田市は特に阿武隈川が決壊すればほとんどの地域が浸水する。現在の角田中学校は位置的には防災上評価が高く、浸水域としての危険性が低い。中学校が旧角女高に移転した後、現角田中学校を防災拠点にすることを検討したのか。

→ 角田中学校の場所を防災拠点として利用するかは議論していない。また、新中学校を旧角女高に建設した場合、角田中学校校舎等は老朽化が進行していることから、解体することが想定される。角田中学校の跡地利用は今後検討していく。

- ・ 我々、横倉地区も阿武隈川が決壊した場合、避難場所が少ない。角田中学校跡地を防災拠点にしたい。要望である。

→ 角田高校も従前のおり避難所として活用できる。

- ・ 市の中心部にある角田中学校が旧角女高に移転後の跡地利用はどうなるのか。今まで、学校が統合した後、利活用されていない。旧角女高に新中学校が移転すれば、市の中心部が空き地となる。県との用地交渉で、場合によっては角田高校の敷地と等価交換までいかないにしても、ある程度やりとりし、差額を支払うことも検討しているのか。

→ 角田中学校の利活用については、市教育長と一緒に県に訪問させていただき、県教育長や施設整備課と調整させていただいている。角田中学校敷地との交換を視野に入れて土地を購入したいと説明をしたが、角田高校を管理している県の高校教育課より、生徒数が減少している状況において、土地を求める理由がないため交換はできないとの回答を得ている。

また、角田市が旧角女高の土地を購入することは理解を得ている。さらに、11月5日に市長が県知事に申し入れをし、理解を得ている。

また、北角田中学校の校舎は13～14年しか経過していない。北角田中学校の利活用も含めて、角田中学校の跡地の地活用を検討していきたい。

- ・ 本日、現役の保護者が全く来ていないのがとても寂しいが、どのように保護者が思われるか。小学校も、近い時期に間違いなく統廃合を行う日が来ると思うので、北角田中学校を3・4年、空き家になると再利用も難しくなることから、一緒にお考えいただきたい。

→ 統合後の土地の利活用については、角田中学校を使わないとなったら、有効な活用を考えていきたい。

北角田中学校は新しい校舎でまだ使える。基本計画を令和2年に策定したときは、もう一つのテーマ「桜小・北郷小の再編・統合」について、場所は北角田中学校の場所を想定していた。これについては、前回の検討委員会では、両校とも小規模校を維持できる予定で、当分の間は複式学級になる状況に無く、現時点では再編・統合の判断は行わないとした。将来的に児童数の減少を踏まえ、令和9年度までに検討委員会を設置し、その時点での児童数の推移を見定めて学校の再編・統合について検討するとしていた。

子どもの数については、令和6年4月1日現在、0才が89人であった。昨年度も多くは減っていない話を聞いていた。給食無償化や保育料無償化等の対策を行っていることから、極端には減っていない状況と思われる。

○防災性について

- ・ 旧角女高の用地は、阿武隈川が決壊したら水が上がったり、内水でも生徒がいる間に水が流れ込む恐れがあるのではないかな。

→ 阿武隈川が決壊する状況時には、学校を臨時休校することになる。しかしながら、旧角田女子高周辺には高い建物がいないことから、周辺住民の避難場所になり得る。

- ・ 防災性は大事な項目である。評価では旧角女高は○、浸水区域が0.5～3m未満となっているが、防災マップを基にした数字か。想定外のことも起こり得るはずだ。防災面から言えば、角田中学校

の場所が一番良い。旧角女高3メートル未満とはいえ、阿武隈川が決壊すれば、学校が水没する可能性がある。あの場所で最善をつくすには、嵩上げすることも一考である。

震災後、海沿いの学校は、1階部分が駐車場にしている学校もある。そこまでする必要はないが、そういった方法も考える必要がある。

→ おっしゃるとおり、この浸水深は防災マップに基づいている。

防災性について、安心できる環境を整備してほしいとのことだが、学校では、災害が起こる可能性があるときは、初期の段階で通学路の安全を確認し、生徒を下校させている。

安全性の確保については、基本計画を策定していく中で検討しながら進めていく。

- ・ 早期避難は最もだが、学校を建設するにあたり、施設への被害も考慮して設計してほしい。

→ 学校の設計についてはこれから議論していくが、例えば普通教室を2階以上に設置したり、垂直避難をスムーズに行える構造にすることも考えられる。整備については、安全性と費用との兼ね合いを見ながら検討を進める。

- ・ 学校はコミュニティの拠点とか防災拠点とか、そのような位置づけがある。角田市は特に阿武隈川が決壊すればほとんどの地域が浸水する。現在の角田中学校は位置的には防災上評価が高く、浸水域としての危険性が低い。中学校が旧角女高に移転した後、現角田中学校を防災拠点にすることを検討したのか。(再掲)

→ 角田中学校の場所を防災拠点として利用するかは議論していない。また、新中学校を旧角女高に建設した場合、角田中学校校舎等は老朽化が進行していることから、解体することが想定される。角田中学校の跡地利用は今後検討していく。(再掲)

- ・ 子どもを預ける身としては、安全性の高い場所に校舎を建設してほしいと思っている。旧角女高は川に近い。親として非常に心配な場所である。選定するにあたって、子ども達の安全が一番大事ではないか。コストの削減等、色々理由はあるだろうが、他の比較項目よりも防災性の重要度を重くしてほしい。

また、敷地の全てが液状化の可能性が高いという部分で旧角女高が◎になっているが、安全性としてどちらが高いのか素人から見ると分からない。

→ 子ども達にとって安全であるということが一番大事だとの趣旨のご意見である。

学校では、災害が起きる前段階で臨時休校にしたりしている。万が一、短時間で災害が起きそうになった場合は、安全が確認されるまで、学校の安全な場所に避難させるなどの最善を尽くす。学校施設内で安全が確保できるように整備していきたいと考えている。垂直避難しやすい構造、普通教室を2階以上に設置するなども考えられる。具体的には、今後策定する整備基本計画で検討し取りまとめていく。

学校の周辺には高い建物があまりない地域であることから、旧角女高に新中学校を建設した場合は、周辺住民の避難場所にもなり得る。

もう一点、液状化については、宮城県第5次地震想定調査によるもので、危険のランクは5段階で評価されている。その中で、旧角女高は相対評価すると危険度のランクは低い。

○生徒数について

- ・ 生徒数が減ってきているが、どの程度の規模の学校を作るのか。
- 学校の規模は、開校時の生徒数を考慮して決める。将来、生徒が減り続け、空き教室が多くなった場合、その活用も考えていく。いつ開校するかは定まっていないが、基本計画を策定する中で開校時期を決め、その開校時期に合わせた規模の学校を造ることになる。
生徒数が減少するとしても、開校時期の生徒数から換算した規模より小さく建設することはできない。
- ・ 令和 15 年頃の生徒数はどれくらいか。
- 昨年度の検討委員会で確認した数字では、角田中学校と北角田中学校の生徒合わせて 409 名としている。
- ・ 小学校の児童数も減少している。新校舎を建設するなら小中一貫学校にしてはどうか。
- そのような考え方もある。しかしながら、角田市における児童生徒数がそこまで少なくなることから、検討委員会の中では小中一貫校の議論はあまりなかった。新しい学校を建設し、将来人数が減った場合、小中一貫校にすることも考えられる。
- ・ 昨年度、角田で生まれた 0 歳児は何人いたのか。今生まれるお子さんが、6・7 年後に、新一年生は何人くらいになるのか。その準備をしてほしい。
- 子どもの数については、令和 6 年 4 月 1 日現在の時点 0 才が 89 人であった。昨年度も多くは減ってない話を聞いていた。給食無償化や保育料無償化等、対策を行っていることから、極端には減っていない状況と思われる。

○スケジュールについて

- ・ 新中学校の建設がスムーズに進んだ場合、何年度から供用開始になるのか。
- スケジュールも基本計画でまとめるため、まだ、具体的な時期は言えない。
第 3 次行動計画構想では令和 15 年度までと設定されているが、なるべく早く子ども達に良い学習環境を提供できるように、急ピッチで十分な議論をしながら進めている。
- ・ 学校は、建設始めてから 1 年かかるのか 1 年半かかるのか。
- スケジュールは、整備基本計画で具体的に示す。土地の購入を行って、そのあと、基本設計、実施設計、工事を行っていく。
- ・ 何年後に中学校を統合するのか。
- スケジュールは、整備基本計画で策定する。現在 3 次行動計画構想期間では令和 15 年度までに整備することになっている。子ども達に早く良い教育環境で勉強ができるよう、前倒して検討していく。
- ・ 2 年前には統合する案内はあると思うが、公立幼稚園がなくなったときは突然であった。ある程度、早めに統合する時期を教えてください。

→ 整備基本計画で統合時期についてのスケジュールをお知らせする。

- ・ 旧角女高に建設する場合、角田中学校の場所に現地再建するより工期が短くなるとのことだが、新中学校の開校時期を教えてください。

→ 開校予定時期は、整備基本計画で具体的に決める。第3次行動計画では令和15年度までに再編・統合することになっている。その期間内に建設する予定であるが、できるだけ早く子どもたちの学習環境を整えてほしいとの声があることから、十分な検討をしながら早く進めていきたい。

○事業費について

- ・ 3つの候補地の建設費は、それぞれ、どれくらいかかるのか。

→ 建設費は整備基本計画で概算事業費を示す。現在、おおよその数字はあるが、それをこの場で言ってしまうと独り歩きしてしまうことから、お示しできない。

国の補助金を活用し市の持ち出しを少なくするとともに、交付税の措置が入った起債を打つなどして、負担を平準化する。

○学校再編統合の情報提供について

- ・ 角田の街中から桜地区に家を建て引っ越しをして来た方がいる。桜小学校の新一年と未就学児がいる家庭であるが、桜小学校と北郷小学校の統合の話を知らなかったようだ。

また、今年の春に仙台市から桜地区に新規転入した小学3年生と未就学児がいる方と、その子ども達が中学校に行く前の桜小学校はどうなるのかという話になった。

10年先までの統廃合のスケジュールを組み、現役の保護者や、これから子どもが欲しい方の判断材料として情報の提供が必要である。

→ 承知した。

○参考事例について

- ・ 山形県高畠町では、田んぼの真ん中に、とても広い中学校を建設した。グラウンドに400メートルくらいのコース、野球とソフトができるエリア、天気によって左右されづらい校舎の下にあるテニスコート。バスも5～6台停車していた。駐車場も大きくとっている。旧角女高くらいの広さはある。

→ 参考にさせていただく。